

資料

八戸いちごの生産・販売戦略（案）

八戸市

1 本格的な生産の始まり

昭和 20 年代の浜市川地区では、ヤマセの影響により、たびたび冷害に見舞われていたことから、農家の男性たちは北海道へニシン漁に出稼ぎに行っていた。

そのような中、昭和 31 年の出稼ぎ中に、農家の男性たち 20 人以上が嵐による漁船転覆事故で命を落としてしまい、その遺族たちの悲しむ姿を見た市立多賀小学校の細川重計校長先生が出稼ぎをしなくてもすむように、当時細々と作付けされていた「いちご」の将来性と栽培技術を説いて回ったところ、浜市川苺生産組合（現在の八戸苺生産組合）の初代組合長となる木村徳男氏ら 7 人の農業経営者が生産に取り組み始めた。

細川重計校長先生の熱心な指導により、次第に栽培農家が増え、作付面積も拡大し、市川地区に本格的な「いちご生産」が定着したと言われている。

2 生産状況

八戸市の市川地区に青森県内で最大の産地が形成され、「さちのか」、「とちおとめ」、「麗紅」などの秋～春に生産される品種に加え、近年では、夏～秋に生産される「すずあかね」、「なつあかり」などの品種も生産されている。

(1) 作付面積の推移 (単位：ha)

平成 7 年	平成 12 年	平成 16 年	平成 21 年	平成 26 年
73	66	47	32	16

◇八戸市調べ

(2) 販売数量等の推移

①販売数量 (単位：トン)

	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年	平成 28 年
八戸農業協同組合	62	67	59	52	53
八戸苺生産組合	183	181	175	156	153
計	245	248	234	208	206

◇八戸農業協同組合、八戸苺生産組合調べ

②販売額

(単位：千円)

	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年	平成 28 年
八戸農業協同組合	56,998	65,592	55,172	53,602	61,831
八戸苺生産組合	215,086	207,114	194,725	189,560	195,849
計	272,084	272,706	249,897	243,162	257,680

◇八戸農業協同組合、八戸苺生産組合調べ

③生産者数

八戸農業協同組合：八戸農業協同組合振興野菜専門部いちご八戸支部会員数
八戸苺生産組合：八戸苺生産組合員数

(単位：人)

	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年	平成 28 年
八戸農業協同組合	15	15	14	14	11
八戸苺生産組合	52	51	47	42	38
計	67	66	61	56	49

◇八戸農業協同組合、八戸苺生産組合調べ

3 生産カレンダー

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----	-----	-----

(促成栽培) ※品種：さちのか、とちおとめ等

○○○	○○○	○○○	○○○	○○○	○○○		○	○○	○	○○○	○○○
					収		処	定保	収		
					穫		理	植温	穫		

(半促成栽培) ※品種：さちのか、麗紅等

	○○	○○○	○○○	○○○	○○○		○				○
	収				収		定				保
	穫				穫		植				温

(夏秋栽培) ※品種：すずあかね、なつあかり等

		○			○○	○○○	○○○	○○○	○○○	○○	
		定			収					収	
		植			穫					穫	

4 販売カレンダー

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----	-----	-----

(促成栽培) ※品種：さちのか、とちおとめ等

○○○	○○○	○○○	○○○	○○○	○○○				○	○○○	○○○
-----	-----	-----	-----	-----	-----	--	--	--	---	-----	-----

(半促成栽培) ※品種：さちのか、麗紅等

	○○	○○○	○○○	○○○	○○○						
--	----	-----	-----	-----	-----	--	--	--	--	--	--

(夏秋栽培) ※品種：すずあかね、なつあかり等

					○○	○○○	○○○	○○○	○○○	○○	
--	--	--	--	--	----	-----	-----	-----	-----	----	--

5 品種の概要

(1) さちのか

特 徴	酸味が穏やかで甘味とのバランスが良く、また、香りはフルーティー。果肉は緻密で輸送性も優れる。
収穫時期	10月～6月
育成地	福岡県

(2) とちおとめ

特 徴	甘味と酸味のバランスが良く、果肉はジューシーだが、緻密で輸送性にも優れる。
収穫時期	10月～6月
育成地	栃木県

(3) 麗紅

特 徴	コクのある甘味と酸味があり、濃厚な味。果肉はジューシーで果汁たっぷり。八戸の昔ながらの品種。
収穫時期	3月～6月
育成地	千葉県

(4) すずあかね

特 徴	夏秋どり品種。酸味がはっきりしていて、甘酸っぱい香りが強く、業務用としての需要が多い。輸送性に優れる。
収穫時期	6月～11月
育成地	北海道

(5) なつあかり

特 徴	夏秋どり品種。外観、食味に優れ、業務用としての需要だけではなく、生食用としても適している。また、輸送性に優れる。
収穫時期	6月～11月
育成地	岩手県

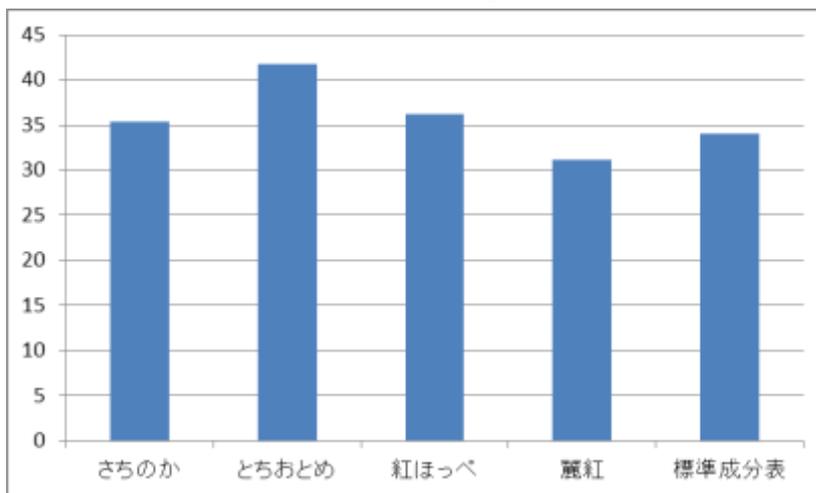
6 八戸いちごの成分結果

試験依頼先：一般社団法人青森県薬剤師会衛生検査センター

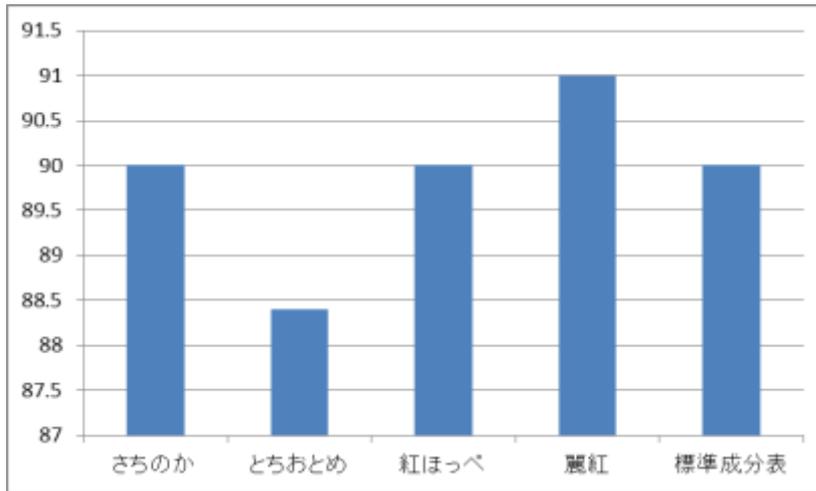
検体提出日：平成26年3月14日

◇表中の「標準成分表」は、日本食品標準成分表2015年版（七訂）より

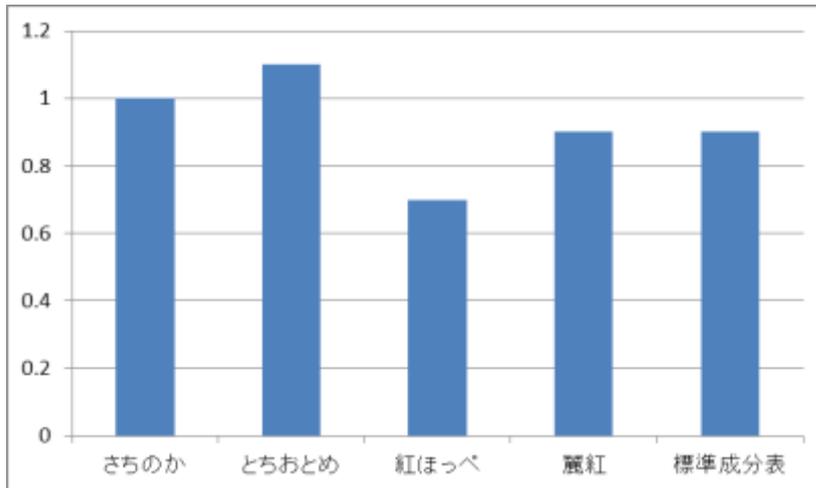
(1) エネルギー (kcal/100g)



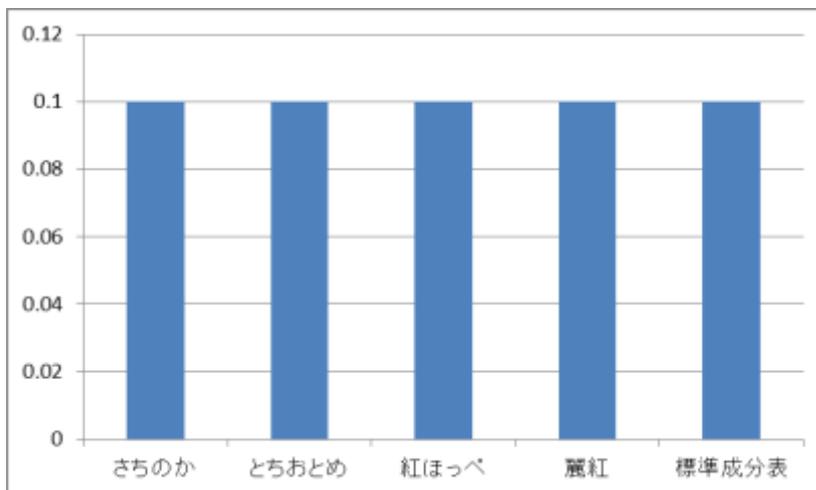
(2) 水分 (g/100g)



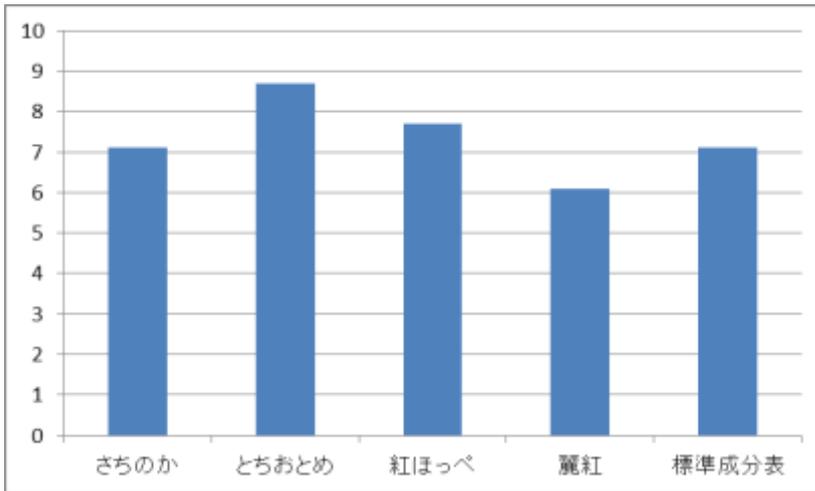
(3) たんぱく質 (g/100g)



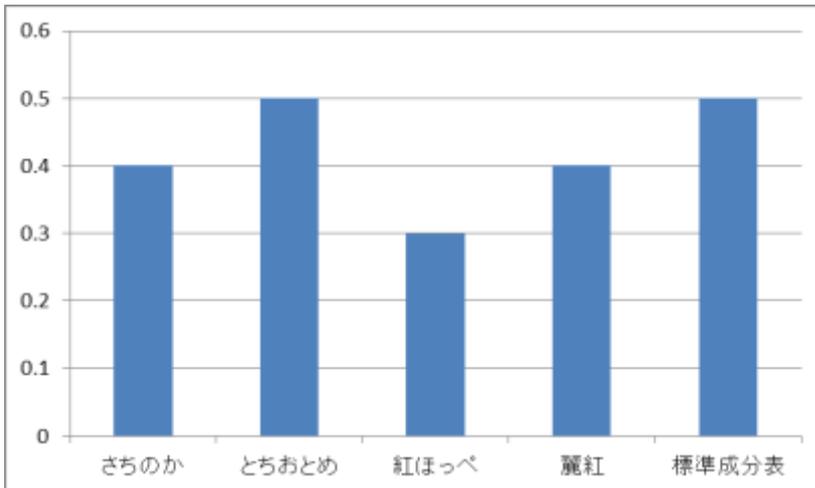
(4) 脂質 (g/100g)



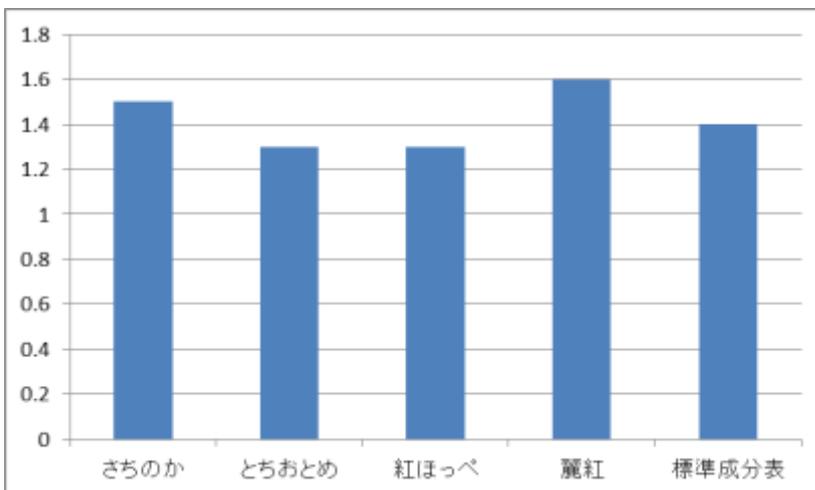
(5) 糖質 (g/100g)



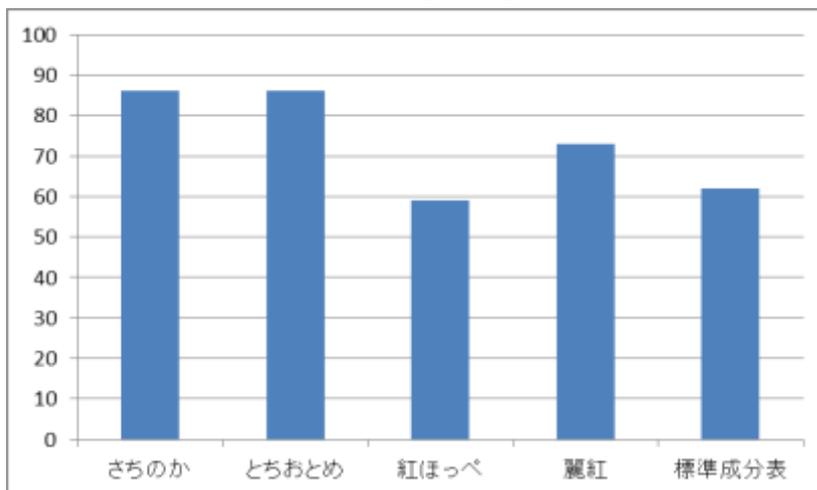
(6) 灰分 (g/100g)



(7) 食物繊維 (g/100g)



(8) 総ビタミンC (mg/100g)



7 経営指標

(1) 一季成りいちご 10a あたり

数量	単価	粗収益	経営費	所得
4,500kg (単収 5,000kg×商品化率 90%)	942 円	4,239,000 円	1,932,273 円	2,306,727 円

◇主要作物の技術・経営指標（青森県農林水産部）より

(2) 夏秋いちご 10a あたり

数量	単価	粗収益	経営費	所得
2,500kg (単収 3,000kg×商品化率 85%)	1,168 円	2,920,000 円	2,428,314 円	491,686 円

◇主要作物の技術・経営指標（青森県農林水産部）より

8 戦略（案）

【生産】

(1) いちごの周年供給のための栽培調査

秋～春に生産される促成・半促成栽培いちごの生産者ニーズに応じた栽培調査を継続するとともに、夏～秋に生産される夏秋栽培いちごの品種特性及び管理手法に関する栽培調査を引き続き実施し、いちごの周年供給体制の確立を支援する。

○農業経営振興センターにおけるいちご栽培調査の概要

調査名：一季なりいちごの品種比較調査

調査期間：平成 29 年度～平成 31 年度

1 目的 一季なりいちごの品種比較調査を実施し、当地域に適した有望品種選定の資料とする。

2 調査方法

- | | |
|-----------------|---|
| (1) 調 査 場 所 | パイプハウス 4 号 (132 m ² : 約 40 坪) |
| (2) 耕 種 概 要 | |
| 1) 栽 培 方 法 | 養液土耕栽培 |
| 2) 定 植 年 月 日 | 10 月中旬 ※購入苗を納品後、直ちに定植 |
| 3) 栽 植 距 離 | うね幅 110 cm、ベット幅 70cm、株間 25 cm、2 条植え |
| 4) 定 植 株 数 量 | 640 株/棟 |
| 5) 施 肥 量 | N-P-K=追肥状況による (N 換算で 2.5kg/a 程度を想定)
【基肥】 LP コート 100 日 (N:40) : 3.8kg/a
【追肥】 大塚養液土耕 6 号 (13.5-10-20) |
| 6) 使 用 資 材 | アヅミン : 3kg/a、あったかマルチ |
| 7) 収 穫 期 間 | 1 月上旬～6 月中旬 |
| 8) 保 温 | 内カーテン : 10 月下旬～5 月上旬 |
| 9) 加 温 | 温風暖房機 (5℃設定) : 11 月上旬～4 月中旬 |
| (3) 調 査 区 の 構 成 | |
| 1) 調 査 区 | 3 区 (1 区 10 株、1 区制) |
| 2) 供 試 品 種 | <1>おいCベリー (育成者 : 農研機構)
<2>もういっこ (育成者 : 宮城県)
<3>ふさの香 (育成者 : 千葉県) |
| (4) 調 査 項 目 | 生育、収量、品質 |

調査名：種子繁殖型いちご品種‘よつぼし’の品種特性調査

調査期間：平成29年度～平成31年度

1 目的 新しく開発された種子繁殖型いちご品種‘よつぼし’について、収量・品質等の品種特性を調査し、栽培上の資料とする。

2 調査方法

- | | |
|------------|---|
| (1) 調査場所 | パイプハウス4号 (132㎡：約40坪) |
| (2) 耕種概要 | |
| 1) 栽培方法 | 養液土耕栽培 |
| 2) は種月日 | 5月中旬 (72穴セルトレイ) |
| 3) 移植月日 | 7月下旬 (10.5cmポット)
※72穴トレイ苗を購入、納品後直ちにポットに移植 |
| 4) 定植年月日 | 9月上旬 |
| 5) 夜冷処理 | 無し |
| 6) 栽植距離 | うね幅110cm、ベット幅70cm、株間25cm、2条植え |
| 7) 定植株数 | 640株/棟 |
| 8) 施肥量 | N-P-K=追肥状況による (N換算で2.5kg/a程度を想定)
【基肥】LPコート100日 (N:40) : 3.8kg/a
【追肥】大塚養液土耕6号 (13.5-10-20) |
| 9) 使用資材 | アヅミン : 3kg/a、あったかマルチ |
| 10) 収穫期間 | 12月上旬～6月中旬 |
| 11) 保温 | 内カーテン : 10月下旬～5月上旬 |
| 12) 加温 | 温風暖房機 (5℃設定) : 11月上旬～4月中旬 |
| (3) 調査区の構成 | |
| 1) 調査区 | 1区 (1区10株、1区制) |
| 2) 供試品種 | よつぼし (育成者：三重県・香川県・千葉県・農研機構) |
| (4) 調査項目 | 生育、収量、品質 |

調査名：八戸特産野菜いちご品種‘麗紅’の作柄調査

調査期間：平成28年度～平成30年度

1 目的 八戸特産野菜であるいちごの半促成作型品種‘麗紅’の収量・品質について調査し、栽培上の資料とする。

2 調査方法

- (1) 調査場所 パイプハウス 16号 (64 m² : 約 19.5 坪)
- (2) 耕種概要
- 1) 栽培方法 養液土耕栽培
 - 2) ポット受期 6月上旬
 - 3) 定植年月日 8月下旬
 - 4) 栽植距離 うね幅 110cm、ベット幅 70cm、株間 20cm、2条植え
 - 5) 定植株数 368株/棟
 - 6) 施肥量 N-P-K=追肥状況による (N換算で 2.5kg/a 程度を想定)
 【基肥】LPコート100日 (N:40) : 1.9kg/a
 CDU複合燐加安 S588 (15-8-8) : 5kg
 【追肥】大塚養液土耕6号 (13.5-10-20)
- 7) 使用資材 【土壌改良材】豚ふん堆肥 (ナチュラルパワー) : 30kg/a、
 バーク堆肥 : 100kg/a、
 肥料粒状苦土石灰 M-10 : 20kg/a
 あったかマルチ
- 8) 収穫期間 3月上旬～6月下旬
- 9) 保温 内カーテン・トンネル : 11月下旬～3月上旬
- (3) 調査区の構成
- 1) 調査区 1区 (1区10株、1区制)
 - 2) 供試品種 麗紅 (育成者：千葉県)
- (4) 調査項目 生育、収量

調査名：夏秋どりいちご(土耕栽培)の定植時期別比較調査

調査期間：平成 29 年度～平成 30 年度

1 目的 当地域における夏秋どりいちご生産の主体である四季成り性品種‘すずあかね’について、定植時期の違いが生育・収量へ及ぼす影響について調査し、栽培上の資料とする。

2 調査方法

- (1) 調査場所 パイプハウス 15 号 (99 m² : 約 30 坪)
- (2) 耕種概要
 - 1) 栽培方法 養液土耕栽培、無加温
 - 2) 苗の養生 冷蔵苗直接定植/9cm ポットで育苗
 - 3) 定植年月日<1> 3月上旬 (冷蔵苗直接定植)
<2> 3月下旬 (冷蔵苗直接定植)
<3> 4月上旬 (9cm ポットで1ヶ月程度育苗後、定植)
(ポット受け日: 3月中旬)
 - 4) 栽植距離 ベッド幅 110 cm、うね幅 70cm、株間 25 cm、2 条植え
 - 5) 定植株数 512 株/棟
 - 6) 施肥量 N-P-K=追肥状況による (N 換算で 2.5kg/a 程度を想定)
【基肥】CDU 複合燐加安 S555 (15-8-8) : 5kg/a
【追肥】大塚養液土耕 6 号 (13.5-10-20)
 - 7) 使用資材 ハイフミンハイブリッド G (微生物資材) : 30kg/a、
アヅミン (Mg:3%) : 4kg/a
あったかマルチ、タイベックマルチ (5月中旬～9月中旬)
 - 8) 収穫期間 6月中旬～11月下旬
 - 9) 保温 内カーテン: 定植日～5月上旬、9月中旬～収穫終了日
- (3) 調査区の構成
 - 1) 調査区 3 区 (1 区 10 株、1 区制)
<1> 3月上旬 冷蔵苗直接定植
<2> 3月下旬 冷蔵苗直接定植 (慣行)
<3> 4月上旬 ポット育苗苗定植
 - 2) 供試品種 すずあかね (育成者: ホクサン株)
- (4) 調査項目 生育、収量

調査名：夏秋どりいちご(高設栽培)のクラウン局部加温調査

調査期間：平成 29 年度～平成 30 年度

1 目的 夏秋どりいちごの高設栽培について、温湯を用いたクラウンへの局部加温が生育・収量へ及ぼす影響について調査し、栽培上の資料とする。

2 調査方法

- (1) 調査場所 ガラス温室 1 号 (165 m² : 約 50 坪)
- (2) 耕種概要
 - 1) 栽培方法 高設・養液土耕栽培
 - 2) 定植年月日 2 月下旬 (冷蔵苗直接定植)
 - 3) 栽植距離 ベット幅 48cm、株間 20 cm、2 条植え
 - 4) 培地量 約 80/株
 - 5) 定植株数 570 株/棟
 - 6) 施肥量 土壌溶液 EC 濃度 0.2~0.7 (生育ステージによる)
【肥料】大塚養液土耕 6 号 (13.5-10-20)
 - 7) 収穫期間 6 月中旬～11 月下旬
 - 8) 保温・加温 ○内カーテン (春 16°C、秋 18°C 設定) :
定植日～5 月上旬、9 月中旬～収穫終了日
○クラウン温湯加温 (温湯 20°C 設定) :
定植日～5 月上旬、9 月上旬～収穫終了日
○温風暖房機 (5°C 設定) :
定植日～4 月中旬、10 月中旬～収穫終了日
- (3) 調査区の構成
 - 1) 調査区 2 区 (1 区 10 株、1 区制)
<1>クラウン局部加温 (温湯 20°C 設定)
<2>無処理
 - 2) 供試品種 すずあかね (育成者：ホクサン株)
- (4) 調査項目 生育、収量

調査名：夏秋どりいちご(高設栽培)の培地比較調査

調査期間：平成 28 年度～平成 29 年度

1 目的 夏秋どりいちごの高設栽培について、培地の違いが生育・収量へ及ぼす影響について調査し、栽培上の資料とする。

2 調査方法

- (1) 調査場所 ガラス温室 1 号 (165 m² : 約 50 坪)
- (2) 耕種概要
- 1) 栽培方法 高設・養液土耕栽培
 - 2) 定植年月日 2 月下旬 (冷蔵苗直接定植)
 - 3) 栽植距離 ベット幅 48cm、株間 20 cm、2 条植え
 - 4) 培地量 約 80/株
 - 5) 定植株数 570 株/棟
 - 6) 施肥量 土壌溶液 EC 濃度 0.2~0.7 (生育ステージによる)
【肥料】大塚養液土耕 6 号 (13.5-10-20)
 - 7) 収穫期間 6 月中旬～11 月下旬
 - 8) 保温・加温 ○内カーテン (春 16℃、秋 18℃設定) :
定植日～5 月上旬、9 月中旬～収穫終了日
○ク라운局部加温 (温湯 20℃設定) :
定植日～5 月上旬、9 月上旬～収穫終了日
○温風暖房機 (5℃設定) :
定植日～4 月中旬、10 月中旬～収穫終了日
- (3) 調査区の構成
- 1) 調査区 3 区 (1 区 10 株、1 区制)
<1>いちご専用培土 (慣行区)
<2>もみ殻培地① (もみ殻 50%+赤玉土 50%)
<3>もみ殻培地② (もみ殻 80%+赤玉土 20%)
 - 2) 供試品種 すずあかね (育成者：ホクサン株)
- (4) 調査項目 生育、収量

(2) 施設の整備に対する補助事業等による支援

生産者のビニールハウス等の整備に要する初期投資を軽減するため、施設整備に関する補助事業等により支援する。

○経営体育成支援事業

〔事業内容〕

融資を活用した中心経営体等の農業用機械・施設の導入に対する補助

〔補助率〕

国 3/10 以内

○野菜等産地強化総合対策事業

〔事業内容〕

上位規格品率の向上、規模拡大、コスト低減等に向けた農業用機械・施設の導入に対する補助

〔補助率〕

県 1/4 以内 ※市の嵩上げは 1/8 以内の予定

【販売】

(1) 八戸いちごの魅力の発信

八戸いちごの強みを生かした情報発信を行い、八戸の特産品としての位置づけを強化することにより、市民の皆様に八戸いちごの魅力を伝達し、業務用等の需要の多様化、並びに市民の皆様の認知度の向上による需要の増加を図る。

○Let' s eat 八戸いちごスイーツづくり体験会

〔目的〕

青森県内最大の生産地である当市のいちごの魅力を発信することにより消費及び販路拡大を図り、八戸いちごのブランド化を推進するために開催するもの。

〔内容〕

八戸いちごをつかったスイーツづくり体験会を実施。

〔実施年度〕

平成 27 年度～

○八戸いちごマルシェ

〔目的〕

青森県内最大の生産地である当市のいちごの魅力をまるごと発信することにより消費及び販路拡大を図り、八戸いちごのブランド化を推進するために開催

するもの。

[内容]

八戸いちごスイーツづくり体験、八戸いちごと八戸いちごを使用したスイーツの販売、八戸いちご大福づくり体験、八戸いちごクイズラリー等を実施。

[実施年度]

平成 25 年度～

(2) 他産業との連携による新たな価値の創出

多様な産業の多様な業種が集積している当市の特徴を最大限に活用するため、八戸菓子商工業組合等の商工業団体との連携による新たなスイーツの開発等の取組を支援する。

○新作八戸いちごスイーツ発表会

[目的]

八戸いちごをつかったスイーツで、八戸いちごの魅力を発信することにより、消費及び販路拡大を図り、八戸いちごのブランド化を推進するために開催するもの。

[内容]

八戸菓子商工業組合員が作製した「八戸いちご新作スイーツ」13 品を審査するとともに、スイーツの特徴等を八戸いちごマルシェの中で紹介。また、物販を実施。

[実施年度]

平成 28 年度～

9 期間

平成 29 年 10 月～平成 32 年 9 月